

「植物採集ニュース」に掲載されたフロラ関係文献目録

「植物採集ニュース」は奥山春季氏によって監修され、1962年創刊、1978年の100号を以って終刊となった。収録された記事は、目録、新分布地報告、新刊紹介等である。本稿には、長野県フロラ関係の記事を拾った。著者名・テーマ・頁の順に示す。

なお現在、同氏によって、1979年から「レポート—日本の植物」として同様の編集発行が行われており、24号まで続刊されている。

第5号（1963年1月）

浜 栄助：オオバタチツボスミレの新産地—長野県カヤの平 17

第7号（1963年5月）

武井 尚：キンレイカの長野県に於ける分布の東北限は御座山か 25

奥田重俊：梓山にクロバナウマノミツバを尋ねて 26～27

玉井平弥：信州四阿高原のカラフトイバラ 27

第8号（1963年7月）

久保田秀夫：木曾御岳山の7月上旬の花 32

第9号（1963年9月）

古瀬 義：東京近傍採集地の紹介（Ⅰ）信州上田近郊角間の谷 33～34

浜 栄助：タデスミレを烏帽子岳にさぐる 34

第10号（1963年11月）

古瀬 義：東京近傍採集地の紹介（Ⅱ）信州南軽井沢の湿地 38

小林美代子：木曾路を歩いて キソジノカンアオイ、ヤマゴボウの味噌漬の原植物、紅紫色花のゲンショウコ 39～40

久保田秀夫：カタオカザクラの実生 40～41

第13号（1964年5月）

里見哲夫：長野県兜岩山の植物 10

第14号（1964年7月）

奥原弘人：ツルコケモモを木曾御岳に発見 13

第15号（1964年9月）

林 弥栄：ヤチダモの天然分布の南限 17

古瀬 義：東京近傍採集地の紹介（Ⅲ）信州上田市西上田駅附近鼠宿 18

杉本順一：新産地一束（その1）ハクバブシ、サクライウズ 19

第16号（1964年11月）

浜 栄助：シナノスミレとキソスミレの正体 21

植松春雄：トダイアカバナのこと 22

第17号（1965年1月）

奥原弘人：木曾の話——サジランとオオタカネイバラ 25～26

高橋秀男：「志賀高原の植物」に追加 27

小暮一夫：シロツメクサ 2580 mの三伏峠に登る 30

第18号（1965年3月）

奥山春季：信州入笠山の植物—採集の手びき— 33～34

第19号（1965年5月）

植松春雄：ヒメスミレサイシンの新分布地 36

横田知枝：八ヶ岳産ウスバスミレの花 36

山本幸子：信州大河原峠の5月の植物 37

奥山春季：新産地短報（5）ツルスズメノカタビラ 40

第21号（1965年9月）

奥原弘人：木曾のスミレ（Ⅰ）キソスミレ、シナノスミレ 47

植松春雄：ヒメスミレサイシンの新産地 50（19号 p. 36と同文）

第22号（1965年11月）

吉川代之助：北ア八方尾根のヒメジョオンを除去せよ 53～54

第23号（1966年1月）

奥山春季：関東地方に於けるアカソとその近似種の分布 1

杉本順一：マルバウマノスズクサ南信に見つかる 1

第24号（1966年3月）

杉本順一：キンチャクスゲ南アルプスに分布する 7

第26号（1966年7月）

古瀬 義：東京近傍採集地の紹介（Ⅳ）信州南佐久郡川上村梓山 20

直江義雄：白馬以北三山の高山植物 21

高橋秀男：八方尾根～唐松岳の植物（長野県） 21～22

第27号（1966年9月）

奥山春季・同 和子：八ヶ岳夏沢峠～上槻ノ木（夏沢峠越え）の植物 27～28

大川ち津子：信州梓山採集記— 1 29～30

第28号（1966年11月）

吉川代之助：山国のハマヒルガオ 32
 大川ち津子：信州梓山採集記－2 34
 第29号（1967年1月）
 奥山春季：アオベンケイの新産地 38
 奥原弘人：信州、鉢盛山（2446 m）に遊ぶ 40
 第31号（1967年5月）
 奥原弘人：木曽谷のフジアザミ 49
 不詳：クロバナウマノミツバの花（写真） 53
 高橋秀男：笹ヶ峰、乙見山、小谷温泉の植物－採集
 の手引き－59～60
 第34号（1967年11月）
 志村義雄・杉野孝雄：信州遠山川の森林軌道ぞいの
 シダ採集記 70
 第36号（1968年3月）
 奥原弘人：木曽にもベニバナボロギク 8
 第38号（1968年7月）
 奥原弘人：木曽に *Dianthus armeria* 帰化す 20
 奥山春季：「植物美観 信濃の花」の著者田中貢一
 小伝 21
 第39号（1968年9月）
 大滝末男：モウセンゴケが群生する信州カヤノ平北
 部の湿原植物探索記 26
 ——：ソウギョは水生植物の敵 28
 第40号（1968年11月）
 斉藤吉永：信州南軽井沢のムラサキ絶滅近し 33
 第43号（1969年5月）
 黒沢美房：オニクの寄主はミヤマハンノキとは限ら
 ない 49
 奥山春季：戸隠山の名花トガクシショウマ再び花を
 つける 49
 第45号（1969年9月）
 林 辰雄：長野県、黒斑山でイワウメを発見 63～
 64
 奥田重俊：ハイマツの緑をかざるキバナシャクナゲ
 66
 第51号（1970年9月）
 浅川富雄：松本市と周辺の帰化植物100種－昭和44
 年の記録（その1）
 奥原弘人：江戸時代（1844年）のおしば帳「木曽産
 草花根皮類」41～42
 第52号（1970年11月）
 上原重男：志賀高原にヒメカイウの群生地を発見
 45
 井上 浩：まりごけ（毬藓）のこと 47～48
 浅川富雄：松本市と周辺の帰化植物100種－昭和44
 年の記録（その2）50～51

大川ち津子：植物ニュースの会9月の霧ヶ峰ジャコ
 ッ原採集記 51
 第53号（1971年1月）
 岡部真木子：民具をつくる地域と材料に使われるス
 ゲ 56～57
 浅川富雄：松本市と周辺の帰化植物100種－昭和44
 年の記録（その3）58
 第56号（1971年7月）
 斉藤吉永：会津と信濃に多産するトゲジシャ 82
 第57号（1971年9月）
 浅川富雄：松本市周辺の帰化植物に7種追加 89
 第60号（1972年3月）
 小林純子：タデスミレの香り 19～20
 第64号（1972年11月）
 土屋 守：信州八ヶ岳のクモイコザクラ 49～50
 浅川富雄：長野県のトゲジシャの二型 55
 第65号（1973年1月）
 長田武正：北海道と長野県に帰化したセイヨウミヤ
 コグサ 59
 浅川富雄：長野県の帰化植物に30種追加－昭和46年
 の調査－ 61
 第68号（1973年7月）
 高田晴男：穂高岳沢の八月の花 87～88
 第70号（1973年11月）
 小松崎一雄：エゾオオヤマハコベ *Stellaria radi-*
 cans L. を長野県小県郡で見出す 100
 第72号（1974年3月）
 浅川富雄：長野県の帰化植物23種追加 14
 第73号（1974年5月）
 斎藤吉永：新帰化植物 ヤネタビラコとヒメハルガヤ
 19～21
 第75号（1974年9月）
 奥原弘人：タカオワニグチソウが木曽にもある 33
 土屋 守：信州梅池のヒダアザミ 33～34
 第76号（1974年11月）
 奥原弘人：信州諏訪にもムサシミツバツツジがある
 42
 第77号（1975年1月）
 杉本順一：新渡来のヒメオドリコソウの品種 50～
 51
 関本盛子・奥山和子・奥山春季：越後の名山雨飾山
 の植物 53～55
 第78号（1975年3月）
 小島裕子・浅川富雄：長野県島々谷口に帰化したニ
 セコバンソウ（新称） 60
 浅川富雄：霧ヶ峯の植物異変——ハルザキヤマガラ

シの大群落 64

第80号 (1975年7月)

土屋 守：信州、天狗山にてイワインチンとリュウ
ノウギクの雑種を採集する 78

第81号 (1975年9月)

杉本順一：南アルプスの高山植物群落の南限地が見
つかる 86

浅川富雄：お母ねもののハイロヨモギが信州上田
に健在 90

第82号 (1975年11月)

浅川富雄：長野県の帰化植物の追加8種 (昭和49年
度) 96~97

第85号 (1976年5月)

植松春雄：南アルプスにおけるオニシモツケの分布
21~22

小山博滋：シロウマオオカニコウモリについて 23
~24

斎藤常夫：釜無山 (山梨県) にシナノコザクラを訪
ねて 25

斎藤吉永：信州菅平にイヌコモチナデシコの大群落

28

第86号 (1976年7月)

浅川富雄：霧ヶ峯に再び植物異変——セイヨウノコ
ギリソウの大発生 32

第90号 (1977年3月)

小林元男：新産地レポート (I) 3) イワムラサキ
を戸台幕岩にて採集 64~65

第92号 (1977年7月)

奥原弘人：昭和6年に採集した交雑種ホクチキア
ザミについて 96

第94号 (1977年11月)

久保田秀夫：さく果をつけたキリガミネヒオウギア
ヤメ 119

第99号 (1978年9月)

斎藤吉永：信州小諸のシロバナモウズイカ 36

第100号 (1978年11月)

小林元男：ヤマナシウマノミツバとキダチニンドウ
——新産地レポート (2)

(横内 文人)

〔新刊紹介〕横内文人「長野県植物ハンドブック」

A 5判 433頁, 1984年5月, 銀河書房発行, 3500円。

内容は第1部地域別の植物, 第2部郡市別植物目
録, 第3部信濃植物誌補遺となっていて始に羽田健
三, 金井弘夫両博士の序文がある。

第1部は県内の高山, 高原, 溪谷, 湖沼など58地
区の植物目録で科別に種名をあげているが各地区の
始に注意すべき植物, 植生概況について述べている。

第2部は県内を14地区に分け植物名を50音順にあ
げてその分布を表示しているが特別なものについて
はその産地も付記している。

第3部は先に父斎氏が著した「信濃植物誌」の補
遺で33種が追加されている。第1部, 第2部ともに
諸研究者の文献をもとにまとめたものである。

まだ研究歴が長いとはいえない同氏がこれだけの
頁数の出版をなし得たのは父の影響とその文献があ
ったからであろうが, 多忙な公務のかたわらの仕事
であってその努力に敬意を表したい。全部が正確で
あるか漏れはないかという点については不明である
が信州の山野で植物の研究をする者にとっては一応
の参考になろう。これによって信州の植物調査が一
段と進展することを期待して紹介の言葉とする。

(H・O生)

〔新刊紹介〕自然研究紀要編集委員会「理科検索表」

B 5判, 194頁, 下伊那教育会 (1984)

下伊那郡下の学校にお勤めの先生方の同好の人々
によって, くふうされ編集された小中学生のための
自然研究に入るための手引書といった本である。

こどもの頃野山を歩いて興味をひかれた草木, 岩
石, 昆虫などがたくさんあり, ほんとうの名前を知ら
ないまま適当な名前をつけて, 呼び合ったりしてい
たものだ。指導して下さる人もなく, その中に興味
も薄れいつとはなしに忘れられてしまうものも多
かった。その点, 本書は植物, 動物, 岩石と南信地
方を中心に身近な環境の中で見られるものを取りあ
げて, 図, イラスト, かんたんな解説をつけ, 系統
的な分類にとらわれず外見的な形を中心にして, 何
も知らないこどもたちにも興味を持って検索しやす
くくふうされているので, 自然に興味を持ったこ
どもたちが正しい名前を覚え, それから生態などい
ろんな自然研究へと入っていける手頃な案内書とな
っている。これさえ持っていれば特に指導者といわ
れる人がついていなくても, こどもたちは結構主体
的に自然研究に入っていけることはまちがいない。又こ
れは, 小中学生のみでなく大人でも自然への関心を
抱く人々にとっては結構よい手引書となってくれる
ことだろう。一般の人々も本書を利用してもっと自
然への関心を高めて頂きたいものである。(S・S)